

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	(前年比)	(前年比)				
トルコぎきょう	北海道	促成～	ピッコロサスノー ジャスニーホワイト	5～11月	2485	5126		0.3	0.3	0.4	由仁町 JAそらち南
			クラリスピンク 海ほのか	8～9月	0.98	1.03					
	山形	加温 無加温 シェード・加温	ポヤージュシリーズ ピッコロサシリーズ ロジーナシリーズ 他白八重 他ピンク八重 他黄八重 一重 ほか	6～11月 (7～10月)	25 (89%)	775 (89%)	600 (89%)	30	35	35	JA新庄市 JA新庄もがみ JA山形もがみ JA鶴岡 JA庄内たがわ JA庄内みどり JA山形市 ほか
			クラリスピンク、 レイナホワイト、 ポヤージュ、 セレブ、 コレゾ他	周年 (6月～7月)	10 100	200	120	30	35	35	石岡市、つくば市、 つくばみらい市、 鉾田市
	群馬	施設	ロジーナシリーズ ポヤージュシ パルカンシリー など	6～10月 11～7月 (7～8月)	6 0.85	225 0.85	200 0.85	35	30	35	昭和村 富岡市 館林市
			施設	4～8月(7月) 10～12月(11月)	7 100%	460 100%	345 100%	40	30	30	館山市、 鴨川市、 南房総市
	千葉	施設		周年 (11～5月)	1 80%	90 100%	90 100%	40	30	30	旭市
			施設								
秋田	施設	こまちWドレス パレオシリーズ コレゾ系 ポヤージュ レイナW等	()	(%)	(%)	(%)				かづの、あきた北 秋田しんせい 秋田おぼこ 秋田ふるさと こまち、うご	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
輪菊	茨城	・品質は概ね良好。 ・5日から10日頃出荷ピークの見込み。	<p>現状</p> <p>白菊は愛知産中心に周年産地の品種の切り替わりの為、秋冬品種、夏系品種が入り混じり上中旬は潤沢な入荷量となった。下旬についても、夏系品種の数量が纏まり安定した入荷であった。</p> <p>見通し</p> <p>白菊は7月上～中旬に掛けて新盆需要があるも、6月からの軟調相場から引き合いは弱め。主力産地、例年並の作付けから安定した出荷数量が見込まれる。</p>
	秋田	おばこ：例年より3日～4日進んでいる。現在日量130ケース前後。生育順調。 ふるさと：春先の高温で生育は例年になく順調。病害虫もなく推移しているが、若干干ばつ気味。	<p>大田花き</p> <p>FAJ</p> <p>新盆に向けて出荷徐々にまとまる見込み。 長野の露地菊はやや遅れ気味の予想</p>
			<p>東日本板橋花き</p> <p>新盆需要中心の動き2L80～</p> <p>世田谷花き</p> <p>秋系の品種も無くなり、入荷も安定するだろう。単価も昨年並ぐらいだろう。</p> <p>第一花き</p> <p>業務・新盆需要中心の流れ、入荷状況によるが概ね例年並みの流れが予想される。@50</p>
小菊	茨城	・一部の圃場でやや前進傾向の見込み。 ・一部生産者でハダニ病、さび病が発生。 ・出荷ピークは昨年よりやや後退の見込み。	<p>現状</p> <p>6月上旬～中旬かけて、各産地ハウス物の出荷が、色バランス・出荷量共に不安定な入荷となる。中旬以降は関東近郊産地より増加していく。</p> <p>見通し</p>
	沖縄	作付面積は少ないが、生育は概ね順調に推移している。黄色系の出荷が中心で黄が8割方を占めており、赤系は少なめの見込み。	<p>大田花き</p> <p>新盆需要に向け増加、中下旬には各地とも数量が増加し、落ち着いた取引となる見込み。</p>
	秋田	7/20過ぎくらいから増え始める。生育順調。	<p>FAJ</p> <p>東北など高冷地出荷徐々にまとまってくる予想。例年並みの出荷を予想も低温などあり不安定。</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>新盆需要中心の動きL40</p> <p>世田谷花き</p> <p>新盆の需要で、中旬までは安定した動き。</p> <p>第一花き</p> <p>新盆需要中心の流れ、中旬以降入荷状況による。@30</p>
バラ	茨城	・出荷のピークは平年並み。	<p>現状</p> <p>例年のサイクルがズレ月上旬に入荷が多い状態が続いた。3週目より例年並に入荷量も戻り、昨年並みの相場展開となった。昨年と違い、業務用需要が少なく、婚礼需要が減少。</p> <p>見通し</p>
	山梨	生育は順調。出荷量は雪害の影響により減少。	<p>大田花き</p> <p>高冷地産の2番花のピークが前半に来る見込みで、西南暖地は相場次第で出荷調整に入る。輸入品の入荷は16日以降となるが、為替の影響から昨年並みには入荷がないと予測される。 2.703,342本 @57</p>
			<p>FAJ</p> <p>引き続き宮城・山形など東北山地中心の入荷続くブライダル少なく落ち着いた販売続く見込み。</p> <p>東日本板橋花き</p> <p>暖地物は夏季剪定に入る産地もあり、山形、新潟、青森の東北産地中心の入荷となる見込み。</p> <p>世田谷花き</p> <p>入荷は昨年並みの見込み。高冷地物中心に、引き合い強くなる見込み。</p> <p>第一花き</p> <p>特に需要も無い月で、産地・品質格差の単価差は出る日持ちも良く無い事から厳しい流れが予想される。ST@50 SP@55</p>

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコぎきょう	北海道	春先の好天により、初期生育は順調であったものの、最近の曇天・低温により生育は停滞気味。また、6月上旬までの少雨により丈が若干短い傾向。今後、天候回復すれば一気に出荷量は増加する見通し。	<div data-bbox="837 293 938 338" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">現 状</div> 入荷量は例年並の出荷を予定しており全国的にも数量は増加してくる見込み。単価も120円前後の取引中心となる。
	山形	7月出し作型の生育は、順調である。6月上旬が高温であったことから、前進出荷する可能性がある。病害虫の発生は少ない。出荷量は、作付面積が減少していることから、前年の89%程度と見込まれる。	<div data-bbox="837 398 938 443" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">見 通 し</div> 大田花き やや遅れがある産地があるものの各産地比較的安定した入荷となる見込み。前半、千葉、茨城のピークとなり中旬以降は長野、山形と最盛期を向かえる見込み。お盆需要は見込まれるが月を通して昨年より厳しい販売が見込まれる。 @120 FAJ 北海道・秋田なども出そろい、高冷地出荷本番。昨年並みの数量と品質での入荷が見込まれる 東日本板橋花き 暖地の出荷が終わり始め、高冷地中心の出荷に完全に切り替わってくる。今後の天候次第だが、数量は潤沢な予想。
	茨城	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷ピークは上中旬中心の見込み。 ・品種によって若干花しみ症状が見られる。 ・一部圃場でアザミウマが発生している。 	世田谷花き 長野・福島などから、各色入荷潤沢。
	群馬	北部地域では開花がやや遅れているが、目立った病害虫の発生もなく生育は良好。平坦地でも生育は良好となっている。降雪の影響により当面の出荷量は減少するが、生産者の再建意欲は高い。ハウスの再建も始まっており、再建ができ次第、出荷量は回復する見込み。	第一花き 業務・新盆需要中心の流れ、産地・品質格差の単価差はでる暖地産の入荷も有り厳しい流れが予想される。@90
	千葉	①6月から季咲きに切り替わる。生育・開花とも順調で、茎葉が硬く仕上がり品質も良好。 ②ポヤージュ系品種(ホワイト、グリーン、イエロー)、ピッコローサスノー、レイナホワイト等の八重系白色品種を中心に出荷。 ③JA安房南房地区では5月27日に出荷査定会を開催し選別基準を確認した。 ①生育は順調。 ②サカタ・ミヨシの品種が中心。	
	秋田	4月の気温も高く、6月も30度を超える日があり、例年より3日ほど早く生育も順調である。	

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	北海道	4月中旬以降の高温・干ばつにより生育は前進傾向。改植作業により平年よりピーク時の出荷本数は少なめ。8月出荷まで出荷量は減少指定組み込み。	<p>現状 各産地改植に入り数量は減少してくる。愛知、長野は上位等級が減少し、山形、北海道中心の入荷となる。 420,000本 @50</p> <p>見通し 北海道、愛知中心となり、ピンク、白中心の入荷となる。その他の色は少量となるが、特に、オレンジ、紫、赤系が少ない見込み。 295,000本 @80</p> <p>大田花き 夏のメリア生産数が年々増加傾向も、出荷数量自体は減少する見込み。</p> <p>東日本板橋花き 青森、北海道中心の入荷。業務中心の動き。</p> <p>世田谷花き 量は横ばい。業務中心の動き。</p> <p>第一花き 入荷も多く無い時期で業務需要中心の流れ。概ね例年並みの流れ。@65</p>
スターチス	北海道	現在の出荷進度はまだ5～6%程。今後出荷本格化するが、最近の曇天・低温の影響により、出方は若干鈍っている。	<p>現状 シニアータは高冷地では一部遅れている部分もありますが、概ね例年並の出荷を予定している。ハイブリットについては各色安定した出荷が見込まれる。販売面では大きな需要も無く落ち着いた取引となる冬場の積雪の影響が出ており、長野、群馬の産地で一部数量減少となる。北海道については順調な出荷が続く見込み。需要面では盆需要で上旬は引き合い強いが、その後は落ち着いた取引となる見込み。</p> <p>見通し 高冷地本格出荷開始。東京本需要に向けまとまった出荷が予定される。</p> <p>大田花き 新盆に向けムラサキ中心に引き合いが強まる見込み。</p> <p>東日本板橋花き 高冷地産、本格出荷始まる。上位等級中心で、品質良好。</p> <p>世田谷花き 業務・新盆需要中心の流れ、入荷状況によるが中旬以降は需要も少ない事から厳しい流れが予想される。シュニ@40 HB@50</p>